

【15 八代市 Yatsushiro City】



八代平野の昭和同仁町から(宇土半島越しに)

八代市では、八代港をはじめ八代海沿岸部、球磨川流域、JR 鹿児島本線の八代駅付近や JR九州新幹線の新八代駅付近、肥薩おれんじ鉄道の肥後二見駅付近、九州自動車道の八代 IC 付近、八代城跡、八竜山や竜峰山、五家荘の矢山岳や大金峰、国見岳など、市内各地から八代海・宇土半島・天草諸島越しに“南東面の雲仙岳”が眺望できます。市内の小学校の校歌にも雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。また、空気が澄んでいれば、八竜山や矢山岳、国見岳から阿蘇山も眺望でき、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。

雲仙岳の山岳宗教の沿革を記した「温泉山縁起」には、古事記・日本書紀に登場する“天孫降臨(天孫ニニギノミコトの天から地上への降臨)神話”の異説的伝承が記されていて、天孫ニニギノミコトが雲仙岳(島原半島)にて誕生し、やがて海を渡って八代を経て日向国に向かった、というのです。他方、八代妙見祭で有名な八代神社には、古代に中国東岸部の寧波(一説には朝鮮半島の百済とも)から妙見神が亀蛇(きだ)に乗って海を越えて八代に渡来し、一時期滞在した、という伝承があり、天草西岸には妙見浦、島原半島には妙見岳という地名があります。天孫降臨が、大陸の高度な技術をもった集団(神)の日本への渡来を表現しているとするれば、上記2つの伝承は、古代の渡来人集団が東シナ海→天草→島原半島→八代という海上ルートで渡ってきた大きな流れを、それぞれ異なる形で伝えているものと言えるでしょう。

時代は下って江戸時代初期、八代城主の松井氏(肥後細川藩の筆頭家老)が城下に築造した“浜御茶屋(松浜軒)庭園”は、球磨川の水を引いた池の北側の築山越しに雲仙岳を望んだ雄大な構成の庭園として、国指定の文化財(名勝)となっています。また、開湯600年の日奈久(ひなぐ)温泉は、江戸時代には藩営温泉となり、八代城主にも愛用されましたが、実はこの温泉街の奥に鎮座する温泉神社から雲仙岳が見られます(↓)。昭和初期に当地を訪れた俳人・種田山頭火は、この温泉と山海の風景を特に気に入り、日記「行乞記」の中で絶賛していますが、その5ヶ月後には雲仙岳そびえる島原半島も周遊し、その西麓にある小浜温泉を称賛しています。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、八代市内を旅してみませんか？

●八代市の観光情報はこちら ⇒ 八代市観光振興課 <http://www.kinasse-yatsushiro.jp/>



日奈久の温泉神社境内から



竜峰山の展望台から